

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	和光大学
設置者名	学校法人和光学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難							
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計									
現代人間学部	心理教育学科	夜・通信	54 ※2			54									
	現代社会学科	夜・通信													
	人間科学科※1	夜・通信													
表現学部	総合文化学科	夜・通信				54				54	14				
	芸術学科	夜・通信													
経済経営学部	経済学科	夜・通信								54				54	
	経営学科	夜・通信													
(備考) ※1 2019年度より「身体環境共生学科」から名称変更。 ※2 「全学共通科目」には、他学部生も履修可能な学部共通科目、学科専門科目を含む。															

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.wako.ac.jp/outline/disclosure/educational_research_00.html#05

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	和光大学
設置者名	学校法人和光学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.wako-gakuen.ac.jp/index.php/page-254/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	小売店代表取締役	平成30年11月 20日～令和3年 11月19日	ガバナンス
非常勤	建設会社代表取締役	平成30年11月 20日～令和3年 11月19日	理事会等改革
(備考) 該当する11名のうちの2名。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	和光大学
設置者名	学校法人和光学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画の作成については、全教員あてに『和光大学シラバス入稿・出講曜時調査マニュアル』を送付し、これにもとづき行っている。</p> <p>シラバスは、WEBシラバスでの検索により閲覧することができる。その内容は、「科目名」、「担当者名」、「開講期」(通年・前期・後期の別)、「単位数」、「曜日時限」、「教室」、「授業テーマ」、「授業計画」、「履修条件・成績評価の基準等」、「教科書」、「参考文献」、「その他」であり、特に「授業テーマ」、「授業計画」、「履修条件・成績評価の基準等」については、適切な記述を行うとともに、実際の教育現場でそれを実践することを基本的な条件としている。</p> <p>作成時期は、11月～3月であり、公表は3月下旬である。</p>	
授業計画書の公表方法	https://portal.wako.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>個々の科目の成績評価は担当教員の裁量であるが、シラバスにおいて「履修基準・成績評価の基準等」を明示するとともに、その基準を厳格に遵守することを義務づけている。</p> <p>成績評価としては「秀・優・良・可・不可」の5段階評価を2019年度から実施している。2018年度までは、上記に加え「合・不合」の2段階評価も併用していた。成績評価は基本的には出席率、レポート・試験の加点率、口頭発表やフィールドワーク参加等の評価率などによっており、これをシラバスに明記することを義務づけている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>2016年度以降の入学生に対して、GPAを採用している。GPAの算定は次の方式により行っている。</p> <p>秀・4ポイント、優・3ポイント、良・2ポイント、可・1ポイント、不合格・0ポイント</p> <p>GPA = (履修科目グレードポイント×単位数)の合計 ÷ 履修科目単位数の合計</p> <p>※履修科目には不合格科目を含む。 ※履修科目には対象外科目を含まない。 ※小数点第3位を四捨五入する。</p> <p>以下は、算定の対象外としている。</p> <p>①評価認定科目全て ②評価「合格」の科目 ③資格課程科目</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.wako.ac.jp/outline/disclosure/educational_research_00.html#06</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学は、建学の理念と教育目標にもとづいて、堅実な職業意識と高い社会貢献への意欲を持ち、広い教養と深い専門性を伴う実力を備えた学生を、実社会に送り出すことを目指している。公平で確かな成績評価を行い、目標の単位を修得した以下のような学生に対して卒業を認定し、学位を授与することとしている。

1. 教養科目や専門科目について所定の単位を取得し、所期の実力を身につけた人。
2. 学習意欲や問題解決への意欲を持ち、それを今後の人生に活かしていこうと考えている人。
3. 広い教養や深い専門的な実力を、職業や社会生活に応用していこうとしている人。
4. 多様な価値や文化を理解し、国際感覚を身につけて社会に貢献していこうとしている人。

上記の卒業の認定に関する方針および各学科の卒業要件（学部卒業の要件となる単位数は各学科とも124単位）を踏まえ、これらを満たした者には各学期の終わり（後期または前期）に学位が授与される。

卒業認定の手順については、教学会議で審議・判定した後、各学部教授会でも審議・判定を行い、最終的に教学支援ディレクターから学長に報告することになっている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.wako.ac.jp/outline/disclosure/educational_research_00.html#06

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	和光大学
設置者名	学校法人和光学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.wako-gakuen.ac.jp/index.php/page-254/
収支計算書又は損益計算書	https://www.wako-gakuen.ac.jp/index.php/page-254/
財産目録	https://www.wako-gakuen.ac.jp/index.php/page-254/
事業報告書	https://www.wako-gakuen.ac.jp/index.php/page-254/
監事による監査報告(書)	https://www.wako-gakuen.ac.jp/index.php/page-254/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:和光学園事業計画書 対象年度:2011~2020年度)
公表方法: https://www.wako-gakuen.ac.jp/index.php/page-254/
中長期計画(名称: 対象年度:)
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.wako.ac.jp/outline/activity/evaluation.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.wako.ac.jp/outline/activity/evaluation.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代人間学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.wako.ac.jp/outline/disclosure/educational_research_00.html#01 ）
（概要）人間や現代社会にかかわる多様な学問を学びながら、現代に生きる人間に必要な知性や研究方法を身につけ、現代社会が抱える諸問題を積極的に解決する能力と現代を主体的に生きる力を育てることを目的とする。講義を通して理論と研究方法を習得するとともに、フィールドワークや実習による現場体験を通して問題意識を深め課題を発見することを目指している。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.wako.ac.jp/faculty-postgraduate/human/3policy.html ）
（概要）現代に生きる人間に必要な知識や教養、研究方法を多様な角度から学び、現代を主体的に生きていく能力を身につけた学生を社会に送り出すことを目指しており、所定の単位を修得し、次の能力を身につけた学生に、卒業を認定し学位を授与する。 1. 人間の“こころ”や“からだ”、日々変化する“社会”や“環境”などのテーマにおいて、私たち自身、そして私たちの生きる社会を深く理解する知識を持つ人。 2. 現代の私たちが抱える課題をリアルな視点で見つめ、分析し、考えていく思考力と判断力を持つ人。 3. 意欲的な学びと研究を通じて、これからの時代を生きる知識と能力を踏まえて、人類が創造してきた文化をさらに発展させるような表現力とより良き社会を形成するための実行力を持つ人。 4. 自らの独自のテーマについて卒業論文・卒業研究を提出し、それを発表して、1～3の能力を総合的に表現することができた人。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.wako.ac.jp/faculty-postgraduate/human/3policy.html ）
（概要）ディプロマ・ポリシーを踏まえ、人間の“こころ”や“からだ”、日々変化する“社会”や“環境”などのテーマにおいて、私たち自身、そして私たちの生きる社会を深く理解し、思考力・判断力・表現力・実行力を形成し、意欲的な学びと研究を実現するための教育課程を用意する。 1. 初年次教育として少人数授業の「プロゼミ」を必修とし、大学生活で必要になる基本的な知的技能とともに、能動的な学習によって発信する力、プレゼンテーションや討議の力の養成を行う。 2. 1年次・2年次には専門分野の基礎を学ぶ学科科目、3年次・4年次には自発的に発信し創造する力をつける演習科目（ゼミナール）と社会で活躍する基礎と実践力を育てる実習科目を提供する。さらに4年次には独自のテーマを据えた卒業論文・卒業研究を執筆し発表することを重点とする。各学科では、学年ごとの到達目標を踏まえたカリキュラムを提供する。 3. 学生一人ひとりが興味関心と能力に応じて初年次からでも専門性の高い科目を履修できるようにしている。 4. 各学科を横断して学ぶことができる教育課程で豊かな教養や複眼的な思考を養う。 5. フィールドワークなどの実践的な科目で現場に立ち向かい、ゼミナール、卒業論文・卒業研究で表現力とコミュニケーション能力を育て、また学科ごとの企画などで地域や社会に発信する動機や意欲や実践力が発揮できるようにする。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.wako.ac.jp/faculty-postgraduate/human/3policy.html）</p>
<p>（概要）本学部では、知識・思考力・判断力・表現力・実行力を持ち、意欲のある多様な学生を歓迎する。そのため様々な方式の入試を実施している。学科の特性に合わせ、以下のより具体的なアドミッション・ポリシーによって学生を受け入れる。</p> <p>【心理教育学科】心理学と教育学と保育学の学問を通して、現代人が直面し解決が求められている課題を学ぶ。人の心について深く知りたい方や、子どもや教育、保育や幼児教育に関心がある方を受け入れる（「子ども教育専修」では小学校教諭や幼稚園教諭の免許、保育士資格を取りたい方を受け入れる）。</p> <p>【現代社会学科】世界・アジア・日本で起こっているさまざまな社会問題に対し、ジェンダー、民族関係、階層、地域などの分析視点と研究方法を学び、問題のありかを的確にとらえ、その解決のために積極的に行動する力を磨きたい人を受け入れる。</p> <p>【人間科学科（身体環境共生学科）】「共生」をキーワードに、身体、健康、環境、異文化、観光、福祉などをトータルに学ぶ本学科では、幅広い興味・関心をもつ学生を受け入れる。環境問題、ボランティア活動、身体表現、スポーツ活動、いろいろな地域の生活と文化などに興味がある学生を受け入れる。</p>

<p>学部等名 表現学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.wako.ac.jp/outline/disclosure/educational_research_00.html#01）</p>
<p>（概要）言語や造形など、人間の表現活動や文化的事象について多角的に学ぶことを目的とする。読む力・観る力をつける訓練やフィールドワーク・創作実践による鍛錬をとおして、他者の表現を理解して受けとめる力を身につけ、さらには自分の表現を社会に向かって開き、新しい時代の文化の創造に参画できる人間を育てることを目指している。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.wako.ac.jp/faculty-postgraduate/hyogen/3policy.html）</p>
<p>（概要）所定の単位を修得し、次の能力をつけた学生に、卒業を認定し学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人類が創造してきた文化について、基礎的な知識を身につけ、表現活動に関わる豊かな教養を身につけた人。 2. 他者の言語表現や造形表現を受けとめ整理して社会に発信する力をつけた人。 3. 人類の文化事象を複眼的に探究し、新たな思考を生み出す力を身につけ、文化の創造に貢献していく力をつけた人。 4. 自らの独自のテーマについて卒業論文・卒業制作を提出し、口述試問を受け、あるいは展示公開して、1～3の能力を総合的に表現することができた人。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.wako.ac.jp/faculty-postgraduate/hyogen/3policy.html）</p>
<p>（概要）言語、造形の多様な表現を総合的な視野のもとに考え、理解し、そこから新しい表現を創り出すことができるよう、教育課程を編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年次教育として少人数授業の「プロゼミ」を必修とし、前期には大学生活で必要になる基本的な技術を身につけ、後期には能動的な学習によって発信する力、プレゼンテーションや討議の力の養成へとステップアップしていく。 2. 1年次・2年次には文化、表現にかかわる専門分野の基礎を学ぶ学科基礎科目、3年次・4年次には自発的に発信し創造する力をつけるゼミナール、4年次に独自のテーマを据えた研究卒業論文・卒業制作と、学年ごとの到達目標を踏まえたカリキュラムを提供する。 3. 総合文化学科は「文学系」「言語系」「現代文化系」、芸術学科は「アート系」「デザイン系」「プランニング系」に専門性の高い科目を置いている。学生一人ひとりが興味関心と能力に応じて初年次からでも専門性の高い科目を履修できるよう

<p>にしている。</p> <p>4. 各学科の系を横断して学ぶことができる教育課程で豊かな教養や複眼的な思考を養う。</p> <p>5. フィールドワークなどの実践的な科目、ゼミナール、卒業論文・卒業制作、学科ごとの企画などで、社会に発信する訓練を行う。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.wako.ac.jp/faculty-postgraduate/hyogen/3policy.html）</p>
<p>（概要）学科毎のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。</p> <p>【総合文化学科】ことばや映像などの表現に興味がある人、外国語や海外の文化を学んでみたい人を求める。広い領域から自由に選択できるため、幅広い視野をもって自分のテーマを探りたい人にふさわしい学科である。また、国語・英語の教員資格が取得できるので、教師を志す人も受け入れる。</p> <p>【芸術学科】美術、デザイン、映像などの制作や歴史やメディアに関心を持ち、自らの創造力を伸ばしたい人を求める。造形、デザイン、プランニングの各コースの授業から自由に学べ、芸術について幅広く学びながら専門性を磨くことができる学科である。美術の教員や博物館学芸員を志す人も受け入れる。</p>

<p>学部等名 経済経営学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.wako.ac.jp/outline/disclosure/educational_research_00.html#01）</p>
<p>（概要）日本経済の現状や世界経済の動きといった経済現象、企業活動のあり方やその運営方法といった経営現象を始めとして、幅広い社会的な関心に目を開かせる教育を通じ、現代が要請する実践的な課題に応え、地域に根ざした視点と豊かな国際的性を備えた人材を育てることを目指している。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.wako.ac.jp/faculty-postgraduate/keizaikeiei/3policy.html）</p>
<p>（概要）本学部は、本学の建学理念と教育目標にもとづいて、深い専門知識と、それを活かすための広い教養と高いコミュニケーション能力を身につけた学生を、社会に送り出すことを目指している。公平で確かな成績評価を行い、所定の課程を修めた以下のような学生には、卒業を認定し学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学および経営学の専門科目について所定の単位を修得した人。 2. 広い教養を通じて経済学および経営学の社会的役割を理解している人。 3. 経済学と経営学を包括的に理解している人。 4. 経済学および経営学の知見を社会生活に応用する能力を身につけた人。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.wako.ac.jp/faculty-postgraduate/keizaikeiei/3policy.html）</p>
<p>（概要）本学部は、本学の建学理念と本学部の教育目標を達成するために、経済学および経営学の専門知識を涵養する講義科目とゼミナールとを設置する。また、専門知識を社会生活や職業生活に活かす力を養成するキャリア教育を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学科にあつては、理論、歴史、政策の3分野の専門科目を体系的に配置し、経営学科にあつては、経営、会計、情報通信技術の3分野の専門科目を体系的に配置する。 2. 学年を重ねるにつれて専門性を高められるよう、必修専門科目と選択専門科目とを1年次から4年次まで階梯的に配置する。 3. 経済学と経営学を総合的に学ぶことができるよう、学科の垣根を超えて専門科目を履修できるカリキュラムを提供する。

- | |
|---|
| 4. 少人数のゼミナールを通じて、専門知識、論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、文章表現力を総合的に涵養する。
5. 4年間を通じ、職業観や社会人基礎力を育むキャリア教育を行う。 |
|---|

入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.wako.ac.jp/faculty-postgraduate/keizaikeiei/3policy.html ）

【経済学科】

経済学科では、社会の仕組みや経済の動きに関心があり、より多くの人により豊かに暮らすためにはどうすればよいかを考えることに意欲がある人を求めます。経済理論、政策、行政、経済史、環境問題、国際社会などに興味がある人を受け入れます。

【経営学科】

経営学科では、経営学科の3つの専門領域である経営・簿記会計・情報にかかわるさまざまな問題について関心を有している人、ビジネスにかかわるみずからの将来像を明確に思い描き、その実現に向けて意欲的に学ぶことができる人を受け入れます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.wako.ac.jp/outline/disclosure/educational_research_00.html#02

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
現代人間学部	—	23人	8人	5人	人	人	36人
表現学部	—	18人	12人	人	人	人	30人
経済経営学部	—	19人	7人	3人	人	人	29人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
人				286人			286人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)						公表方法： https://noah.wako.ac.jp/fdb/	
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、FD推進委員会が中心となり、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に繋げるため、①授業見学（年2回）、②授業アンケート（年2回）、③学内FD研修会（年2～3回）、④学会等への教職員派遣を中心とした活動を組織的かつ継続的に展開している。</p> <p>【参照】 大学ホームページ上で前年度FD活動報告及び当該年度の活動計画を公表している。 (http://www.wako.ac.jp/outline/activity/evaluation.html)</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代人間学部	260人	297人	114%	1040人	1061人	102%	欠員の範囲 人	3人
表現学部	203人	241人	119%	812人	869人	107%	欠員の範囲 人	2人
経済経営学部	260人	296人	114%	1040人	1214人	117%	欠員の範囲 人	4人
合計	723人	834人	115%	2892人	3144人	109%	欠員の範囲 人	9人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
現代人間学部	167人 (100%)	1人 (0.6%)	135人 (80.8%)	31人 (18.6%)
表現学部	144人 (100%)	0人 (0.0%)	89人 (61.8%)	55人 (38.2%)
経済経営学部	173人 (100%)	0人 (0.0%)	142人 (82.1%)	31人 (17.9%)

合計	484人 (100%)	1人 (0.2%)	366人 (75.6%)	117人 (24.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 和光大学大学院、川口市役所、新宿区役所、さがみ農業協同組合、日本瓦斯株式会社、日本郵政株式会社、東京信用金庫、株式会社東計電算、小池酸素工業株式会社、パルシステム生活協同組合連合会 他				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) 授業計画の作成については、全教員あてに『和光大学シラバス入稿・出講曜時調査マニュアル』を送付し、これにもとづき作成を行っている。 シラバスはWEBシラバスでの検索により閲覧することができる。その内容は、「科目名」、「担当者名」、「開講期」(通年・前期・後期の別)、「単位数」、「曜日時限」、「教室」、「授業テーマ」、「授業計画」、「履修条件・成績評価の基準等」、「教科書」、「参考文献」、「その他」であり、特に「授業テーマ」、「授業計画」、「履修条件・成績評価の基準等」については、適切な記述を行うとともに、実際の教育現場でそれを実践することを基本的な条件としている。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要) 個々の科目の成績評価は担当教員の裁量であるが、シラバスにおいて「履修基準・成績評価の基準等」を明示するとともに、その基準を厳格に遵守することを義務づけている。 成績評価としては「秀・優・良・可・不可」の5段階評価を2019年度から実施している。2018年度までは、上記に加え「合・不合」の2段階評価も併用していた。 成績評価は基本的には出席率、レポート・試験の加点率、口頭発表やフィールドワーク参加等の評価率などによっており、これをシラバスに明記することを義務づけている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代人間学部	心理教育学科	124単位	有・無	単位
	現代社会学科	124単位	有・無	単位
	人間科学科	124単位	有・無	単位
表現学部	総合文化学科	124単位	有・無	単位
	芸術学科	124単位	有・無	単位
経済経営学部	経済学科	124単位	有・無	単位
	経営学科	124単位	有・無	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法:		

学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：
----------------------------	-------

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.wako.ac.jp/outline/disclosure/educational_research_00.html#07

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
現代人間 学部	心理教育 学科心理 学専修	850,000 円	250,000 円	100,000 円	施設設備資金
	心理教育 学科子ども教育専 修				
	心理教育 学科子ども教育専 修保育コ ース			170,000 円	施設設備資金 100,000 円、実験 実習費 40,000 円、保育士養成 課程受講申請料 30,000 円 (※ 施設設備資金以外は入学年次生 のみ)
	現代社会 学科			100,000 円	施設設備資金
	人間科学 科 (2019 年度以降 入学生)				
	身体環境 共生学科 (2018 年 度以前入 学生)				
表現学部	総合文化 学科	250,000 円	150,000 円	施設設備資金 100,000 円、実験 実習費 50,000 円	
	芸術学科 (2017 年 度以降入 学生)				
	芸術学科 (2016 年 度以前入 学生)				
経済経営 学部	経済学科 経営学科	250,000 円	100,000 円	施設設備資金	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学支援に関して、本学では学費負担を軽減し、授業料を半額にする制度として、学業成績優秀者向けに「和光大学成績優秀者奨学金」、入学前と在学中に経済的に就学が困難な者に学資を補助する「和光大学給付奨学金」がある。また、就学継続の意思が強くありながら、家計支持者である保証人が、死亡、疾病等により、学費の支払いが困難なため、学業の維持が著しく困難であると認められる者、火災あるいは地震、台風等の災害のため、経済的に困難な状況にあると認められる者を対象とした授業料の免除を認める制度がある。さらに、やむを得ない事情により期限までに学費を納入できない場合、「学費延納願」を提出することによって納入期限を延長することができる制度もある。 また、本学では全学科でコア・クラス・ティーチャー (C.C.T.) 制度を採用している。

学生に対して、C.C.T.を通じて、修学支援等を行っており、相談事はまずC.C.T.が第一義的な窓口となって対応している。C.C.T.は、初年次の「プロゼミ」や「キャリア研究Ⅰ」、「ゼミナール1」を担当しており、両者は週に1度顔を合わせるシステムになっている。悩みや問題を抱える学生が気軽に、かつ早期に相談できる体制をとっており、初年次のオリエンテーションでこのシステムを周知している。

また、2017年に導入した「和光ポータル」により、各専任教員や職員が学生の単位修得状況や履修登録状況を詳細かつリアルタイムで把握できるようになったため、さらに緊密な関係構築が可能となった。専任教員は成績不振その他の学生の状況を随時把握し、各学科において情報交換の上、対処法を検討し、C.C.T.中心に他の教員や職員と協力しながら指導にあたっている。

さらに、肢体不自由や発達障がい等、合理的配慮の必要な学生については、C.C.T.が支援方針等を取りまとめ、学生生活会議委員や他学科の教員、学生支援室等と情報共有を図り、的確な対応に努めている。また、「和光ポータル」により、障がいのある学生の履修状況も的確に把握することができるようになっている。また、学生から授業担当教員に個別に文書による配慮依頼を行う制度や、試験時の配慮希望に対応する制度も適宜運用されている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

学修面においては、共通教養科目にキャリア発達論やキャリアデザインといった科目を配置し、1年次からキャリア形成を育てている。各学部の専門科目ではインターンシップを必ず配置している。また、専任教員がオフィスアワーを公表し、学生と相談できる時間を設け進路相談にも応じている。

キャリア支援室の支援においては、主な取組として、「窓口相談」「キャリア支援行事・講座」「求人企業やインターンシップ実施企業の情報提供」を行っている。窓口相談では、キャリアカウンセラー有資格者のスタッフが個別相談（履歴書添削や模擬面接含む）を実施し、一人ひとりに合った進路相談に丁寧に応じている。キャリア支援行事・講座の実施では、自己分析・業界研究などの就職活動に必要なスキル修得のための講座に加え、1年次から進路選択に向けキャリア形成を意識した講座も開催している。また、キャリア支援室スタッフによるキャリアガイダンス（ゼミ・プロゼミ訪問）を実施し、一人でも多くの学生と接触する機会を積極的に設けている。求人企業の情報提供では、紙媒体による資料の閲覧の他、求人情報を検索・閲覧できる専用のシステムを配置しており、インターネットによる自宅での利用にも対応している。

その他、3年次の5月には「進路希望登録説明会」を開催し、進路選択に役立つ「進路の手びき」（冊子）を配付すると共に、一人ひとりの進路希望を把握しその後の進路決定へと促している。また、保護者向けに「キャリアサポートガイド」を刊行、自宅へ郵送等行い、保護者へ対しての学生の進路選択への理解を求めている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の健康管理については、学生たちが健康な生活が送れるよう、医務室に常時2名の職員を配置し、定期健康診断や健康相談、応急処置に取り組んでいる。また、学内の感染症予防対策や急性アルコール中毒防止等の啓発活動も実施している。定期健康診断の実施は、受診者のアフターケアも大切であり、面談や受診勧奨、経過観察を実施している。その他、授業・課外活動中の事故等の把握、保険手続き等を含む「学生教育研究災害傷害保険」の業務、大学祭・入試等の大学行事における学生健康管理を行っている。

近年、精神・発達障がい学生の割合が増加しており、2017年4月の学生相談センターの発足に伴い、常勤カウンセラー2名が週4日ずつ勤務し、週5日の開室が可能となり、教員の内部連携や医療機関、就労支援センターなど外部機関との連携等、学生の状況に即した個別の支援を行う体制、「教員と職員の協働による支援」や「自殺企図など緊急事態への対応」がより柔軟に行えるようになった。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：http://www.wako.ac.jp/outline/disclosure/educational_research.html

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	和光大学
設置者名	学校法人和光学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		22人	22人	22人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	1人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	1人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	1人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。